

教職員全体で教育のデザインに取り組み

「活動を有機的に結びつける」という課題にどう取り組めばよいのかを考えていたところ、2月号の特集を読み、生徒自身に教育活動の一つひとつに大きなつながりがあると感じてもらうことが大切であると教わった。そのトータルデザインは、管理職任せにするのではなく、教職員全体でつくり上げていくという姿勢を学校内の雰囲気として築くことにまずは着手したいと思った。

〔東京都・私立東京農業大学第一高校・小堀健二〕

積極的な校外活動が

多様な考えや価値観を育む

2月号「ハートをこがせ!」の愛知県立一宮高校の地学部の活動は、生徒の活動が学校内にとどまらず、他校と連携したり、研究会に参加したりと、積極的に外に出て行こうとしている点が素晴らしいと思った。運動部は年間を通じて大会があり、外に出る機会が多いが、文化部の多くは発表の機会が少なく、活動の場が限定されてしまいがちなので、多様な考えや価値観を育む上でもそのような活動が広がると良いと思う。

〔茨城県立水戸第一高校・川久保典昭〕

生徒の知識・理解をアウトプットする機会を増やす

2月号「指導変革の軌跡」の愛知県立江南高校は、土曜教室で様々な講座を設けて、アウトプットする機会を確保している点が参考になった。本校でも、知識・理解の深化と定着

Reader's VIEW

Volume **1**

読者のへーじ

読者の先生方からのご意見を紹介します

確認のためのアウトプットの機会の必要性を痛感している。また、放課後に補習を行っており、部活動に顧問がなかなか行けない状況も生じているので、部活動に活気を取り戻し、進学実績も向上させている取り組みも参考になった。

〔和歌山県・匿名希望〕

教師と保護者の建設的な議論が、生徒の成長につながる

2月号の「半歩未来を考える教育オピニオン」を読み、学校も保護者も「基本的に目指す方向性は同じ」という言葉に実に共感した。学力だけではなく、社会人として立派に活躍してほしいと教育活動に取り組んでいるのが私たち高校教師であり、その方向性と異なる保護者がいるはずはない。目的は共通でもその実現のための手段や方法、レベルについて齟齬があるのは当然のことで、むしろそれを建設的な議論によって昇華することができれば、どれほど生徒の成長につながるのだろうか。学校と保護者が今以上に協働できる環境を整備していきたいものである。

〔愛知県立日進西高校・野々山新〕

教師川柳

夢を持って！声かけ自分はくじを買う

富山県立富山高校・樋掛雅則

『VIEW21』高校版はウェブサイトでもご覧いただけます!

本誌の最新号、及びバックナンバーは、ベネッセ教育総合研究所のウェブサイトで公開しております。誌面のPDFや「改良! 指導ツール ピフォーアフター」の図版もダウンロードできます。ぜひご利用ください。

詳しくは

VIEW21 高校版

検索

<http://berd.benesse.jp/magazine/kou/>



編集後記

◎「VIEW'S REPORT」でご紹介した山梨県の英語ディベート大会で優勝した山梨県立吉田高校は、私の母校です。優勝インタビューで、はきはきと答える後輩たちに頼もしさを感じるとともに、ディベート大会に向けて主体的に取り組んできたことが伝わってきました。それは、どの参加校の生徒も同じだったに違いありません。今号の特集でお伝えした高校生の主体性の向上を、この取材でも垣間見られたような気がします。今年度も、次なるステージへ進もうとしている高校教育について、先生方とともに考えてまいりたいと思います。よろしくお願いたします。(柏木)

VIEW21 4月号 Vol.1

2016年4月8日発行

発行人 山崎昌樹
 編集人 春名啓紀
 発行所 (株)ベネッセコーポレーション ベネッセ教育総合研究所
 印刷製本 (株)協同プレス
 編集協力 (有)ペンダコ
 執筆協力 中丸 満、二宮良太
 撮影協力 荒川 潤、川上一生、谷口 哲、南 弘幸、ヤマグチイック

VIEW21編集部
 〒163-0411 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビルディング13階

©Benesse Corporation 2016

VIEW21

2016
June
6月
Volume 2

次号は
6月13日発行(予定)
『VIEW21』高校版は
年6回の発行です